



100億円規模の設備投資 100人規模の増員予定

島根三洋電機

木次町山方にある三洋電機グループの島根三洋電機株式会社（三木善弘代表取締役会長、成田建一代表取締役社長）が、現在の敷地内へ太陽電池の製造工場を新設することになりました。

島根三洋電機は昭和51年8月に島根三洋工業として設立され、OA機器などを生産し、平成14年からは太陽電池の生産を開始しています。

太陽電池は、太陽光エネルギーを電気エネルギーに変換する半導体の一種で、温暖化ガス排出量の削減に効果もあることから需要も高まっており、同社製の太陽電池は、エネルギーの変換効率も高く年間発電量が多いのが特徴です。

新工場は、この太陽電池のセルを生産する専用工場（6,500㎡）で、今年10月に着工、平成20年9月からの稼働をめぐっており、100億円の投資により、太陽電池の生産能力は現在の約3倍に拡大される予定です。

また、今回の工場新設では約100人規模の増員計画も検討されており、新たな雇用創出が期待されることから、市においても、市産業振興条例に基づく支援等を行う予定としています。

三洋電機（本社 大阪府守口市）では、世界トップレベルの事業体をめざしており、平成21年以降も太陽電池事業の拡大を図り、島根三洋電機においても生産施設の増強が計画されています。



三洋電機製HIT太陽電池

雲南ニュース

連携強化で地域の安全を守る

雲南地域防犯ボランティア連絡会

犯活動の状況や事例紹介がありました。

引き続き、グループに分かれた意見交換会では、「青パトの登録や申請はどのような手順で進めるのか」、「子どもたちに顔を覚えられるようになることがまず大切」、「見守り活動は、できる時にできる人がやるという姿勢でなければ長続きしない」などの活発な意見が出され、地域内での防犯活動のさらなる連携を図りました。



雲南地域子ども安全センターからは、子どもを犯罪から守るための情報等のメール配信システムの説明もありました。

もったいない宝物を活用し地域活性化

まちづくり講座に学ぶ

平成17年7月に初回講座を開催し、12月14日には、6回目となる講座をかもてらさ会場で開催しました。

この日は、江津市桜江町のNPO法人「結まるプラス」のかわべまゆみさんを招き「地域を元気にするコミュニティ・ビジネス起こし」もったいない宝物を活用して活かす方法」と題した講演をいただきました。

かわべさんは、「地域の魅力をいかに情報発信するかが重要です。田舎暮らしツアーをどんどん企画



雲南市では、地域活性化のためのもちづくり活動について学び、交流を深める「まちづくり講座」を開催しています。

効率的で安定的な農業経営をめざして

雲南市特定農用地利用規程認定書交付式

市役所会議室で11日、農業経営基盤強化促進法に基づく雲南市特定農用地利用規程認定書が、申請5組合へ交付されました。

この認定書は、農地の利用集積・保全管理や担い手の確保などの農業経営を集落一体となつて取り組む計画を策定し、申請した団体に対して、雲南市が交付するものです。



特定農業団体としての資格を持つこととなり、平成19年度から始まる新しい米政策への加入や、交付金の対象者となることが可能となります。

式では、各団体の代表者へそれぞれ認定書が手渡された後、速水市長が「後継者不足など農業環境は厳しいものがありますが、地域一体となり、効率的で安定的な農業経営をすすめていくて欲しい」と激励しました。

- 曾木農用地利用改善組合（吉田町 12月1日認定）
- 木ノ下農用地利用改善組合（吉田町 12月1日認定）
- 小川農用地利用改善組合（木次町 12月1日認定）
- 南加茂農用地利用改善組合（加茂町 12月25日認定）
- 槻之屋農用地利用改善組合（木次町 12月25日認定）

雲南市長のコラム

昨年お話しした「正食」の記事（12月号コラム参照）の小食についてです。このところ体重が変わりません。ちょうどいいかなと思っていますが、小食に努めています。慣れてくればどういうこともありませんが、それに至るまでがなかなか大変。朝、昼は大体思うとおりに実行できていますが、夜はとかく外での食事が多いため、偏らないように食べ過ぎないように努めています。

食卓には腹八分程度の量を並べ残さず食べる、腹加減もちょうど良い、健康維持にも良い、資源の無駄づかいにならない、となると食料自給率が低い日本にとっても好都合であるし、環境問題にも大きく貢献するということに繋がります。

その食料自給率は約40%。先進国の中で最低の状況です。ほとんどの資源を輸入している我が国では、同様にほとんどの食料も輸入しています。世界全体の人口が増えいく中で、何時、食料危機が訪れるか分かりません。その際の国家間の食料争奪戦の凄まじさは容易に想像できます。健康の維持増進に努め、資源の浪費を慎み、食料の自給率を高めなければなりません。小食をその第一歩にしましょう。

雲南市長 速水雄一



昨年12月に開催されたアジア大会女子5,000mにおいて銀メダルを獲得した杉原加代さん（三刀屋町出身・パナソニック女子陸上競技部所属）とともに（1月16日）